



巻頭言

耳鼻咽喉科 教授 / 木村 百合香



やわらかな春の日差しに、季節の移ろいを感じる頃となりました。豊洲の街にも少しずつ明るさが戻り、新しい年度を迎える準備が始まる季節です。耳鼻咽喉科は現在、日本耳鼻咽喉科頭頸部外科専門医3名を含む常勤医4名体制で診療にあたっております。耳・鼻・のどの幅広い疾患に対応しながら、「患者さんと全人的に向き合い、生活の質（QOL）を改善する」ことを大切に日々診療を行っています。

当科診療の三本柱は、「きこえの改善」「鼻副鼻腔疾患の治療」「のどの機能の改善・維持」です。春は花粉症の季節でもあり、くしゃみや鼻づまり、目のかゆみなどに悩まれる方も多い時期です。当科では内服や点鼻治療に加え、重症例に対する外科的治療や生物学的製剤の導入など、患者さんの生活背景に応じた治療を提案しています。

なかでも近年、特に力を入れているのが「のど」の機能、すなわち嚥下（えんげ）機能の診療です。食べることは単に栄養を摂る行為ではなく、人生の楽しみであり、尊厳を支える大切な営みです。しかし加齢や脳血管障害、神経疾患などにより嚥下機能が低下すると、誤嚥性肺炎のリスクが高まり、生活の質が大きく損なわれます。

日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会では「のどフレイル」の概念を提唱し、のどの機能低下を早期に発見し介入する重要性を啓発しています。当科でも嚥下内視鏡検査や嚥下造影検査を用いた専門的評価を行い、リハビリテーション指導から外科的治療、さらには気管切開管理や慢性流涎への対応まで、病態に応じた包括的診療を提供しています。脳血管センター、リハビリテーション科、病院歯科、栄養サポートチーム（NST）など多職種と連携し、「安全に、そして美味しく食べ続けられる」医療を目指しています。

また、2026年8月29日には、当科が主催し「第22回日本神経摂食・嚥下栄養学会」を開催いたします。テーマは「息づく命に 食べる力を」です。地域の皆さまに支えられながら、嚥下障害診療のさらなる発展に努めてまいります。

耳鼻咽喉科は、「きこえ」「におい」「味」、そして「呼吸」「発声」「嚥下」という、人が人らしく生きるための大切な機能を守る診療科です。小さなお子さまからご高齢の方まで、皆さまの毎日を支える存在でありたいと願っております。気になる症状がございましたら、どうぞお気軽にご相談ください。



第143号のトピックス

- 巻頭言（耳鼻咽喉科）
- 江東区立豊洲西小学校との交流
- 当院行事食のご紹介
- 職場体験の学生を受け入れました
- 関東ブロックDMAT訓練に参加しました
- ご意見・ご要望
- 編集後記

江東区立豊洲西小学校との交流

当院では、地域の皆さまと共に歩む病院を目指し、江東区立豊洲西小学校の児童の皆さんに医療や健康について理解を深めてもらえるよう、病院見学や職員による交流をしています。

1月22日（木）に江東区立豊洲西小学校の5年生を対象に「人の誕生」をテーマとした出前授業を行いました。妊娠中のお腹の中の赤ちゃんの大きさや成長の様子を問うクイズでは、児童たちが積極的に手を挙げ、楽しみながら考える姿が印象的でした。

また、授業内で実際の新生児に近い重さの赤ちゃん人形を使って抱っこ体験を行い、児童が順番に抱っこに挑戦しました。抱き上げた瞬間「思ったよりも重い」「かわいい」といった声が聞かれ、いのちの重さを実感している様子が見られました。

授業後の質疑応答では、「双子の赤ちゃんも1つの卵から生まれるの?」「赤ちゃんはずっと羊水の中にいるけど鼻は痛くならないの?」といった質問が寄せられ、児童の旺盛な好奇心と学びへの意欲が強く感じられる時間となりました。

当院では、今後も地域の皆さまと協力しながら、健康教育や次世代育成に寄与する活動を継続してまいります。



Pick up

当院行事食のご紹介

当院で提供している食事は、患者さんに必要な栄養が過不足なく摂取できるように計算された食事とし、季節ごとの行事やお祝いの日、お祭りの日に食べる特別な料理である「行事食」を定期的に提供しています。3月は「ひな祭り」の行事食を提供予定です。



昨年の献立

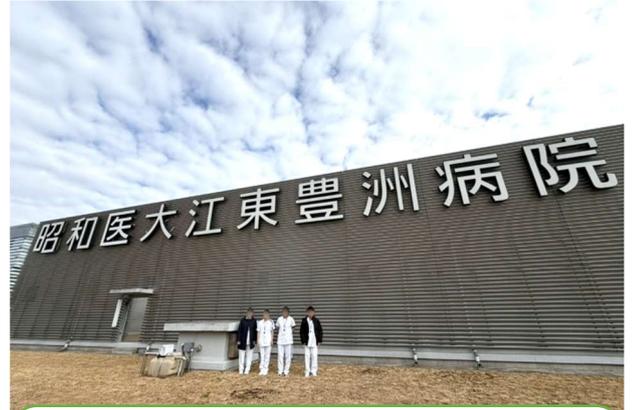
- ・ちらしご飯
- ・ちくわの煮物
- ・菜の花のクルミ和え
- ・ピーチムース

職場体験の学生を受け入れました

1月28日（水）から30日（金）までの3日間、近隣の中学校から4名の学生を受け入れ、各部署で職場体験を実施しました。

期間中は病院内の見学だけでなく、患者さんと直接向き合いながら各職種の業務を体験したり、病院食を実際に味わったりと、当院についてより深く理解してもらえる内容となりました。

もともと近隣の中学校ということもあり、学生たちは当院の存在を認識していましたが、今回の職場体験を通じて、病院で働く職種の多さや、部署間で連携する難しさなど、医療現場の幅広い側面を知ってもらうことができました。



職場体験初日の集合写真

関東ブロック DMAT 訓練に参加しました

1月31日に令和7年度関東ブロック DMAT 訓練に隊員4名が参加しました。今回は多摩東部を震源とする直下型地震の発生を想定した訓練でした。

本訓練では、まず自院の被災状況を、実際に地震が発生した想定で EMIS（広域災害救急医療情報システム）に入力しました。

EMIS 入力後、被災状況を取りまとめた本部から派遣先の医療機関を指示されます。

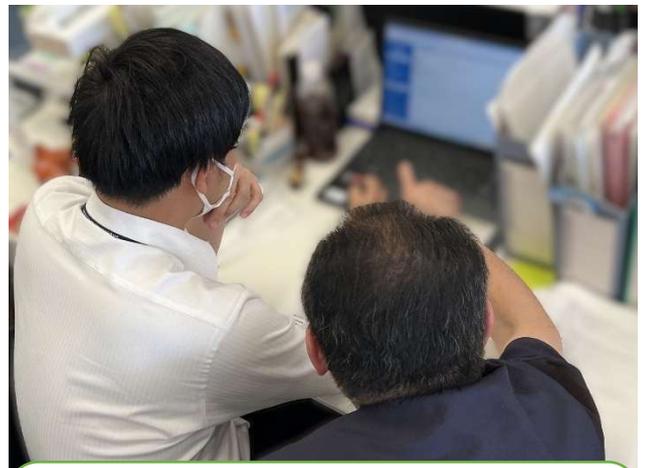
当院は、南多摩エリアの DMAT 活動拠点本部が設置されている東京医科大学八王子医療センターに参集し、指示で南多摩病院へ移動し、病院支援の訓練を行いました。

病院内で支援 DMAT として指揮所を立ち上げ、病院災害対策本部と連携しながら入院患者や地震により受傷して搬送されて来た患者の搬送調整を行いました。

今回の訓練を通じて、被災状況をはじめとした情報共有が円滑に行われることが大切であると思いました。災害拠点病院として、搬送が必要な患者が多数発生する事も想定されるため、関係機関と協力して円滑な状況報告、患者搬送が出来るよう努めてまいります。

EMIS（Emergency Medical Information System）とは？

阪神・淡路大震災を契機に1996年に開発され、災害時に被災地内外の医療機関の被災状況、受入可能人数、DMAT（災害派遣医療チーム）の活動状況などを全国の行政機関、DMAT等の医療チームとリアルタイムに共有し、迅速な医療支援を実現するためのシステムです。



EMIS の入力を行っている様子

<p>感謝</p> <p>とても素晴らしい病院です。先生も看護師さんも優しくテキパキしていてとても感謝しています。1つだけ院内が少し乾燥しているように感じ、のどが渴きました。</p>	<p>お褒めの言葉をいただきありがとうございます。室内乾燥の件は改善に向けて対策いたします。ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">回答：循環器内科</p>
<p>ご意見</p> <p>旗の台の昭和医科大学病院のように、服薬時など少量の水を飲みたいときに利用できるウォーターサーバーのような設備があるとありがたいと感じました。</p> 	<p>ご不便をおかけし申し訳ございません。各病棟のデイルームに給茶機をご用意しておりますのでぜひご利用ください。</p> <p>場所が不明な場合は、お近くの職員までお声がけください。</p> <p style="text-align: right;">回答：管理課</p>



編

集

後

記

少しずつ春の気配を感じる頃となり、年度の締めくくりの時期を迎えました。この一年を振り返りながら、新しい季節への準備を進めている方も多いのではないのでしょうか。3月は環境の変化や忙しさから、知らないうちに疲れがたまりやすい時期でもあります。無理をしすぎず、ほっと一息つく時間を大切にしてみてください。また、寒暖差や花粉の影響で体調を崩しやすい季節でもありますので、睡眠や食事など基本的な生活リズムを整えることが健康管理の第一歩です。

年度末は一年を振り返る大切な節目ですが、病院の手術室でも日々の確認や振り返りを重ねながら、多職種チームで患者さんの安全を支えています。これからも安心して医療を受けていただけるよう努めてまいります。新しい季節が皆さまにとって前向きなスタートとなりますよう願っております。

はら
原 あきら
麻酔科 /



昭和医科大学江東豊洲病院 <http://www.showa-u.ac.jp/SHKT/>
 〒135-8577 東京都江東区豊洲 5-1-38
 TEL03-6204-6000(代表)
 発行責任者：横山 登 編集責任者：大槻 克文



昭和医科大学江東豊洲病院
ホームページ